

芸術文化観光専門職大学 養父市との連携事例

自治体の課題(ニーズ)



大雪による被害や経年劣化が進んでいた国指定重要文化財の「名草(なぐさ)神社」。(兵庫県養父市八鹿町)。

多くの支援を受け、本殿と拝殿の根本的な保存修理工事が8年をかけて行われ、令和4年に竣工した。

養父市では、その完成を記念し、神社の存在を再認識したり地域の歴史・文化を改めて考えたりするきっかけになるような式典・イベントを実施したいと考え、地域の特色を活かした企画内容を模索していた。

研究成果(シーズ)の還元



名草神社の歴史伝承を調査し、本学の特性である芸術文化・観光の観点を活かして、地域の歴史や文化、思い出や大切な出来事を忘れないということテーマにした構成劇「わすれなぐさ」を制作・上演し、養父市の地域活性化に寄与することをめざした。初演は令和4年に現地である名草神社で、また2回目となる令和6年の公演では、市民ホールを舞台としてプロジェクションマッピング技術を用いてより臨場感あふれる舞台とした。

今回のプロジェクションマッピングでは、舞台美術の立体造形に加えその背後の平面にも投影する事で、二次元と三次元の境界にまたがる視覚的効果を狙った。そのため、実際の名草神社三重塔の立体寸法をコンピュータグラフィックスでシュミレーションし、模型を学生が製作した上で実際のオブジェを作成した。

この連携に携わった研究者



芸術文化・観光学部
杉山 至 准教授

(研究者からのメッセージ)

舞台芸術は、総合芸術と言われ、文学や音楽、照明や舞台美術といった空間芸術まで、知性と身体の知覚(5感)を総動員して体感する芸術です。その舞台芸術にあって舞台美術(セノグラフィー)とは、単に劇場の舞台をデザインするだけではありません。人と人、人や物と環境がどのように関わり、その関係の総体が作り出す、状況・場のあり方を考えデザインするコミュニケーション・デザインでもあります。

※ 研究者の経歴等は(URL: <https://www.at-hyogo.jp/education/teacher/1273/>)をご参照下さい。